

令和6年度定時社員総会議事録

日 時 令和6年5月15日（水）13時00分～16時30分

場 所 大阪市 大阪国際会議場 10階 1001～1003

代議員（社員）総数 304名（過半数は153名、3分の2は203名）

出席代議員数 288名（うち委任状による出席者26名）

出席役員 理事 村上信五、大森孝一、丹生健一、朝蔭孝宏、池園哲郎、欠畑誠治、香取幸夫、川寄良明、小島博己、小林一女、塩谷彰浩、曾根三千彦、野上兼一郎、兵頭政光、堀井 新、本間明宏、守本倫子、山唄達也、吉崎智一。

監事 岡本美孝、高橋 姿、明海国賢。

議事録作成者 理事長 村上信五

司会の小森 学幹事から開会宣言があった後、猪原秀典会長（第125回日耳鼻総会・学術講演会）から挨拶があった。

開 会

定款第16条に基づき村上信五理事長を議長に選出した。

村上信五議長から、定時社員総会・学術講演会開催にあたり、猪原秀典会長はじめ大阪大学関係者に対する謝辞、ならびに定時社員総会において役員立候補者の投票を行うこと等について説明があった。

また、村上信五議長から、今回の代議員の出席者は262名、委任状による出席者26名の計288名で、開催および定款の変更の定足数（代議員304名の過半数153、および3分の2以上203）に達しており、定款第14条第1項および第18条第1項に基づき令和6年度定時社員総会を開会するとの宣言があった。

議事録署名人には医育機関から宮崎県地方部会の高橋邦行代議員、開業医関係から大阪府地方部会の有賀秀治代議員の2名を指名した。

次に、令和5年度の物故会員55名に対して、黙祷を捧げた。

その後、審議に入った。

1. 報告事項

第1号報告 令和5年度事業報告について

令和5年度事業報告について、大森孝一副理事長から主要な事業と新たな事業等を中心に報告があり、詳細については、令和6年度定時社員総会資料冊子に掲載されている旨説明があった。

第2号報告 令和6年度事業計画について

令和6年度事業計画について、大森孝一副理事長から令和6年度定時社員総会資料冊子に基づき報告があった。

第3号報告 令和6年度収支予算書について

塩谷彰浩財務担当理事から、令和6年度収支予算書（損益計算ベース）および同（資金ベース）について令和6年度定時社員総会資料冊子およびスライドに基づき報告があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支予算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、前年度に比べて87,871,000円増の697,701,000円となった。増額の主なものは、5 事業収入 1) 定期集会参加費等収入11,460,000円増、2) 展示会場収入19,047,000円増、5) 専門医審査登録収入36,100,000円増、7 寄付金収入3,500,000円増、および8 雑収入 3) 雑収入で16,505,000円増である。

また、減額の主なものは、6 補助金等収入1,500,000円減である。

事業活動支出は、121,186,000円増の785,496,000円を見込んでいる。1 事業費については、78,352,000円増の606,055,000円である。増額の主なものは、(4) 会議費31,096,000円増、(13) 賃借料66,106,000円増、(18) 支払助成金14,500,000円増である。

一方、減額の主なものは、(5) 旅費交通費1,946,000円減、(15) 諸謝金2,190,000円減、および(20) 委託費50,985,000円減となっている。

また、2 管理費は、42,834,000円増の179,441,000円である。増額の主なものは(5) 旅費交通費5,185,000円増、および(20) 委託費37,678,000円増である。一方、減額の主なものは、(16) 租税公課1,880,000円減、および(18) 支払助成金3,350,000円減である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は22,322,000円で、その主な内訳は奨学基金取崩収入である。一方、投資活動支出は35,990,000円で、奨学基金積立預金支出7,000,000円、特別事業積立預金支出5,000,000円、退職給付積立預金支出3,290,000円、事務所建替積立預金取崩支出20,000,000円である。

III 予備費支出の部では、予備費3,000,000円を計上している。

以上日耳鼻本部をまとめると、当期収支差額は△104,463,000円であるが、これに前期繰越収支差額195,400,000円を加えて、次期繰越収支差額は90,937,000円となっている。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入915,953,026円、事業活動支出1,008,622,686円で、収支差額は△92,669,660円である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は、22,322,000円、投資活動支出40,776,000円で、投資活動収支差額は△18,454,000円である。

III 備費支出は3,200,000円である。

これをまとめると、当期収支差額は△114,323,660円であるが、これに前期繰越収支差額555,784,229円を加えると、次期繰越収支差額は前年度より57,065,684円増額の441,460,569円である。

第4号報告 専門医制度について

専門医制度委員会担当である丹生健一副理事長から、①専門研修における検査に関する実技講習の受講の必修化、②専門医認定試験内容の変更、③更新基準の変更等について報告があった。

第5号報告 第126回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について

藤枝重治次期会長から、第126回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について、次の会員に依頼したことが報告された。

宿題報告：

- ・本間 明宏会員（北海道大学 教授）
「鼻副鼻腔がん治療の新時代」
- ・池園 哲郎会員（埼玉医科大学 教授）
「Cochlin-tomoprotein (CTP) が切り拓く難聴、めまい診療の未来」

臨床講演：

- ・鈴木 幹男会員（琉球大学 教授）
「耳鼻咽喉科疾患におけるヒトパピローマウイルス感染の多様性と治療戦略」
- ・曾根三千彦会員（名古屋大学 教授）
「画像が解き明かす内耳疾患の新展開」

第6号報告 日耳鼻研究奨励賞について

大森孝一副理事長から、令和5年度日耳鼻研究奨励賞受賞者について、次の2名に決定したことが報告された。

- ・木戸口正典会員（福井大学）
「好酸球性副鼻腔炎の難治化解明と個別化医療の基盤構築」
- ・細谷 誠会員（慶応義塾大学）
「霊長類モデル動物を用いた内耳蝸牛発生における多様性形成メカニズムの解析」

第7号報告 輝く耳鼻咽喉科女性賞について

小林一女男女共同参画委員会担当理事から、輝く耳鼻咽喉科女性賞 2023 について、次の4名に決定したことが報告された。

- ・市川菊乃会員（きくの耳鼻咽喉科クリニック）
- ・上羽瑠美会員（東京大学）
- ・内田育恵会員（愛知医科大学）
- ・増田佐和子会員（国立病院機構三重病院）

第8号報告 耳鼻咽喉科教育・育成功労賞について

小島博己卒前・卒後教育委員会担当理事から、耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2023 について、次の6機関に決定したことが報告された。

なお、耳鼻咽喉科勧誘 YouTube 動画賞については、医学生・臨床研修医のためのセミナーにおいて決定する旨が報告された。

耳鼻咽喉科専攻医数が多かった機関

- 1位：川崎医科大学、
- 2位：岩手医科大学、昭和大学、東邦大学、信州大学、愛媛大学

第9号報告 子育て支援賞について

働き方改革に関するWG座長である小林一女理事から、令和5年度に子育て支援賞を創設したこと、および令和5年度については次の3機関に決定したことが報告された。

- 1位：岐阜大学
- 2位：甲南医療センター
- 3位：金沢医科大学

第10号報告 海外留学支援制度について

海外留学推進・支援WG座長である藤枝重治会員から、令和5年度に海外留学支援制度を創設したこと、および令和5年度については、田中秀憲会員、栗原 涉会員、小松田浩樹会員、毛利宏明会員、および岡 愛子会員に対して、海外留学のための助成を曾田豊二基金、奥田稔基金から行ったことが報告された。

2. 決議事項

第1号議案 役員選任に関し、承認を求める件

村上信五議長から、定款の定めにより、本総会終結をもって、理事および監事全員が任期満了となるため、定款に従い令和5年9月に役員候補者選出管理会が設置され、管理会の長を甲能直幸会員に、管理会の委員を岸本 曜会員、佐藤 崇会員、鈴木 淳会員、松延 毅会員に委嘱したことの報告があった。

また、役員候補者選出内規に定める開票立会人については、病院関係から大阪府地方部会の川島佳代子代議員、および開業関係から大阪府地方部会の澤田達代議員が指名され、両代議員は、開票に立ち会った。

続いて、甲能直幸役員候補者選出管理会の長から、以下の説明があった。

- ・本年2月29日を締切日として役員候補者の受付を行った結果、理事立候補者19名、監事立候補者3名があった。
- ・理事候補者の投票は、女性立候補者3名を含む19名に対して、17名の定数連記、無記名投票を行った。
- ・監事については、定員3名に対して、立候補者3名であるため、定款施行細則第20条第(5)ロ括弧書きにより、投票は行わず、全員当選となる。

上記説明の後、甲能直幸役員候補者選出管理会の長から、開票の結果、選出された理事候補者は、50音順で朝蔭孝宏、池園哲郎、猪原秀典、大森孝一、欠畑誠治、小島博己、曾根三千彦、中川尚志、羽藤直人、春名眞一、平野 滋、藤枝重治、堀井 新、本間明宏、松浦一登、守本倫子、山唄達也の17名であるとの報告があった。

村上信五議長から、17名を理事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。また、監事立候補者の岡本美孝、高橋 姿、登坂 薫の3名を監事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。

次に、村上信五議長から、役員を選任決議を個別に行うとの提案があり、新理事として、朝蔭孝宏、池園哲郎、猪原秀典、大森孝一、欠畑誠治、小島博己、曾根三千彦、中川尚志、羽藤直人、春名眞一、平野 滋、藤枝重治、堀井 新、本間明宏、松浦一登、守本倫子、山唄達也の17名および新監事として岡本美孝、高橋 姿、登坂 薫の3名を、それぞれ出席代議員の議決権の過半数の賛成により選任した。

引き続き、一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会から理事として推薦された野上兼一郎役員候補者および藤岡 治役員候補者について選任決議を行い、両名ともそれぞれ出席代議員の議決権の過半数の賛成により理事に選任された。

なお、被選任者は、それぞれその就任を承諾した。

第2号議案 令和5年度貸借対照表および正味財産増減計算書に関し、承認を求める件

塩谷彰浩財務委員会担当理事から、令和5年度貸借対照表、正味財産増減計算書および資金ベースの収支決算書について、令和6年度定時社員総会資料冊子およびスライドに基づき説明があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支決算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、予算額に対し、167,569,370円増の777,399,370円となった。増額の主なものは、4会費収入約330万円増、5事業収入1)定期集会参加費等収入約5,100万円増、2)展示会場収入約2,400万円増、6補助金等収入約800万円増、7寄付金収入約7,000万円増、および8雑収入約1,050万円増である。一方、減額の主なものは、5事業収入の7)補聴器相談医更新収入約120万円減である。

事業活動支出は、予算額に対し、32,785,280円減の631,524,720円となった。

1事業費は、予算に対し25,327,662円減の502,375,338円で、増額の主なものは、(4)会議費約240万円、(18)支払助成金約1,000万円増、(20)委託費約550万円、および(21)支払手数料約150万円増である。一方、減額の主なものは、(1)職員給料手当約230万円減、(5)旅費交通費約2,200万円減、(8)消耗品費約400万円減、(11)印刷製本費約1,150万円減、および(23)HP維持費約120万円減である。

2管理費では、予算に対して7,457,618円減の129,149,382円となっている。増額の主なものは、(9)図書費約240万円増、(19)支払い寄付金100万円増、および(20)委託費約370万円増である。一方、減額の主なものは、(5)旅費交通費約260万円減、(11)印刷製本費約130万円減、(16)租税公課約250万円減、および(20)支払助成金260万円減である。

以上、事業活動収支差額は、200,354,650円増の145,874,650円の黒字である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は、奨学基金取崩収入により、約2,360万円であり、投資活動支出は、奨学基金積立預金支出5,700万円、特別事業積立預金支出500万円、退職給付積立預金支出約350万円、および事務所建替積立預金支出2,000万円等で86,207,320円である。収支差額は47,496,853円増のマイナス62,565,853円である。

以上、日耳鼻本部の決算をまとめると、当期収支差額は国際交流やイベント等のために新たに特別事業積立500万円や事務所建替積立預金に2,000万円返戻等を行ったが、83,308,797円の黒字であった。前期繰越収支差額が118,611,283円あったため、次期繰越は201,920,080円である。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、I 事業活動収支の部では、事業活動収入977,541,203円、事業活動支出826,085,993円で、収支差額は151,455,210円である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は、23,641,467円、投資活動支出88,144,320円で、収支差額はマイナス64,502,853円である。

以上、当期収支差額は86,952,357円であり、これに前期繰越収支差額508,895,339円

を加えて、次期繰越は 595,847,696 円となっている。

監事を代表して明海国賢監事から、令和 6 年 4 月 23 日に岡本美孝監事および高橋 姿監事の 3 名で監査を行い、適正に行われていることを確認した旨の報告があった。

加えて、村上信五理事長から、公認会計士による報告書においても、適正に管理されている旨記載されているとの説明があった。

令和 5 年度貸借対照表および正味財産増減計算書について、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、原案のとおり承認した。

第 3 号議案 第 129 回総会・学術講演会の会長候補者選出に関し、承認を求める件

村上信五理事長から、第 129 回総会・学術講演会の会長候補者選出について、「会長の選出方法に関する理事会申し合わせ」に基づき、令和 5 年 7 月に、参与、代議員に会長候補者の推薦を依頼したこと、およびその結果を参考にして令和 6 年 4 月 26 日開催の理事会に諮り、東京都地方部会の小島博己会員が会長候補者として承認された旨報告があった。

小島博己会員を会長とする提案に対し、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、これを承認した。

3. その他

1) 会員情報新システムについて

丹生健一 WG 担当理事から、会員モバイルアプリの機能、費用、スケジュール等について報告があった。

2) 委員会の名称変更について

大森孝一副理事長から、委員会の名称変更について以下の報告があった。

- ・調査委員会 ⇒ 調査・医療 DX委員会
- ・男女共同参画委員会 ⇒ ダイバーシティ・働き方改革委員会
- ・先端研究委員会 ⇒ 臨床研究推進・実用化委員会
- ・産業・環境保健委員会 ⇒ 産業保健・環境委員会
- ・医事問題委員会 ⇒ 医療安全・医事問題委員会

3) AC ジャパンによる「難聴の啓発と認知症の予防」の啓発活動について

難聴啓発特命プロジェクト担当の欠畑誠治理事から、本年 7 月から開始される AC ジャパンによるキャンペーンについて報告および協力依頼があった。

4) HPV ワクチンの男性に対する定期接種化について

丹生健一副理事長から、現状について報告があった。

5) 人工内耳スピーチプロセッサのアップグレードについて

成人老年委員会担当の香取幸夫理事から、人工内耳のアップグレードに関する保険適用の留意事項について報告があった。

6) オールジャパンプロジェクト検討会について

先端研究担当の池園哲郎理事から、5年、10年先の実現を目指した大きいプロジェクトを発案・企画し、継続的に進めることが本検討会の設置趣旨であることや、現在進行中・検討中の課題等について説明があった。

7) 地方部会長および代議員からの提案事項について

① 社員総会の名称を代議員総会に変更することについて

社員総会の名称だと日耳鼻会員誰でも参加できるとの印象を受けるため、社員総会の名称を代議員総会に変更することの提案について、沖縄県地方部会代議員から提案趣旨説明の後、村上信五理事長から、以下の説明を行った。

- ・「社員総会」の名称は法律上の名称・用語であるため、「社員総会」の名称を変更することは、却って混乱を招くことが懸念され、また、既に一般社団法人に移行してから12年経過し、会員・代議員には「社員総会」が定着しているものと考ええる。
- ・しかし、ご提案の趣旨を踏まえ、今回からかっこ書きで代議員総会と併記することとした。

② オンデマンド配信期間の厳格化について

オンデマンド配信による単位習得のメリット、必要性は理解できるが、行き過ぎた期間延長は、地方部会等に多大な影響があるため、配信期間の厳格な運用を行うべきとの提案について、大阪府地方部会代議員から提案趣旨説明の後、村上信五理事長から、以下の説明を行った。

- ・オンデマンド配信については、関連する学会への影響、地方部会主催・地方医会主催の講習会等への影響、子育て世代や働き方改革等も十分に考慮しながら、オンデマンド配信の有無、配信対象となる講演等の選定、期間設定を行っている。
- ・ご提案を踏まえ、オンデマンド期間は3か月間とし、単位が取れるのは2か月間に限り、残り1か月は視聴のみとすることとしたい。

③ 頤周囲皮下脂肪組織吸引除去術における上気道閉塞に対する注意喚起について

他科における術後合併症を起こした患者が耳鼻咽喉科頭頸部外科を受診する可能性があるため、会員に対する注意喚起が必要であるとの提案について、東京都地方部会代議員から提案趣旨説明の後、医事問題委員会担当の朝蔭孝宏理事から、以下の説明を行った。

- ・気道緊急として受診した場合は、挿管、開創・気管切開などの緊急対応が必要であること、具体的な対応方法は日本医療安全調査機構の提言を参照すること、および保険外診療手術の合併症に対する診療行為はすべて保険外診療となり全額患者負担となることについて、日耳鼻ホームページで注意喚起を行う。

8) WG 報告について

配付資料「WG 報告書」(ホームページ掲載予定)により、以下のWG 活動が報告された。

- ① 日耳鼻学術講演会・秋季大会のあり方に関するWG (座長：兵頭政光)
- ② 専攻医教育WG (座長：小島博己)
- ③ 専門医育成・活用WG (座長：堀井 新)
- ④ 働き方改革に関するWG (座長：小林一女)
- ⑤ 専門医認定試験改善WG (座長：塩谷彰浩)
- ⑥ 海外留学推進・支援WG (座長：藤枝重治)
- ⑦ 近未来の耳鼻咽喉科医療WG (座長：猪原秀典)
- ⑧ 耳鼻咽喉科頭頸部外科リハビリテーションWG (座長：土井勝美)
- ⑨ 耳鼻咽喉科医療DX WG (座長：大森孝一)
- ⑩ 新規医療の開発と実用化推進WG (座長：池園哲郎)
- ⑪ ヘッドホン・イヤホン難聴対策WG (座長：野上兼一郎)
- ⑫ 補聴器適正普及WG (座長：香取幸夫)
- ⑬ 言語聴覚士雇用促進WG (座長：香取幸夫)
- ⑭ HPV 関連がんとHPV ワクチンに関するWG (座長：猪原秀典)
- ⑮ デフリンリンピック支援WG (座長：中川尚志・福與和正)
- ⑯ 耳鼻咽喉科診療機器の感染制御WG (座長：坂本達則)

9) S P I O について

加我君孝理事長から、SPIO の設立趣旨および活動について報告があった。

以上ですべての議事が終了した後、村上信五議長から謝辞があり、閉会宣言があった。

令和6年5月15日

一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 令和6年度定時社員総会

議事録署名人（議長） 村上信五

議事録署名人（代議員） 高橋邦行

議事録署名人（代議員） 有賀秀治